

シンポジウム

建築構造設計における冗長性とロバスト性

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会 構造物のレジリエンス評価小委員会

構造委員会の応用力学運営委員会に所属する「構造設計における冗長性と性能最適化小委員会(2009.4-2013.3)」では、建築構造設計における冗長性とロバスト性の考え方について調査研究を行ってきた。

本シンポジウムでは、上記小委員会の4年間の活動成果を報告すると同時に、最近関心が高まっている冗長性とロバスト性を向上させる建築構造設計の考え方を紹介する。本テーマは、2011年度日本建築学会技術部門設計競技としても採用されており、構造設計者と学生を対象に冗長性とロバスト性を向上させる建築構造設計の考え方を具体的に分かりやすく解説する。なお、2013年6月に刊行される応用力学シリーズ12『建築構造設計における冗長性とロバスト性』は、シンポジウムの参考資料として大いに役立つ。

建築物の構造設計の実務に直接関係する技術者、大学院生、若手研究者の方々の積極的な参加を期待したい。

日時：2013年6月18日(火) 13:00～17:00

会場：建築会館・本会会議室(東京都港区芝5-26-20)

【プログラム】

(各講演20分=15分発表+5分質疑討論、途中10分休憩)

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. 冗長性とロバスト性・進行性崩壊の定義と関連研究 | 竹脇 出 (京都大学) |
| 2. 冗長性とロバスト性を考慮した設計例 | 浅岡泰彦 (大林組)・朝川 剛 (日建設計) |
| 3. ロバスト性と冗長性の定量的評価法 | 寒野善博 (東京大学) |
| 4. キーエレメントの概念を用いた冗長性評価 | 伊藤拓海 (東京理科大学) |
| 5. 既存構造物の局部損傷による崩壊を抑制するための部材配置 | 福田隆介 (鹿島建設) |
| 6. 数値解析に基づいた高層建築物の冗長性評価 | 磯部大吾郎 (筑波大学) |
| 7. トラス・トポロジー最適化と冗長性・ロバスト性 | 高田豊文 (滋賀県立大学) |
| 8. ロバスト性を考慮した設計の概念 | 山川 誠 (東京電機大学) |
| 9. ロバスト性に優れた弾塑性骨組構造物の設計法 | 曾我部博之 (愛知工業大学) |
| 10. 地盤と建物の相互作用効果と冗長性・ロバスト性 | 中村尚弘 (竹中工務店) |
| 11. 信頼性と冗長性 | 趙 衍剛 (神奈川大学) |

定員：60名(申込み先着順)

参加費(資料代含む)：会員4,000円、会員外5,000円、学生2,000円

※参考テキスト『応用力学シリーズ12:建築構造設計における冗長性とロバスト性』
予価3,990円、会員特価(予価)3,591円(上記参加費には含まれておりません)

申込方法：E-mailで「催し物名称、上記参加費種別および(本会会員の場合)会員番号、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス」を明記のうえお申し込みください。

申込締切：2013年6月10日(月)

申込み・問合せ先：事務局研究事業グループ 伏見 E-mail: fushimi@aij.or.jp